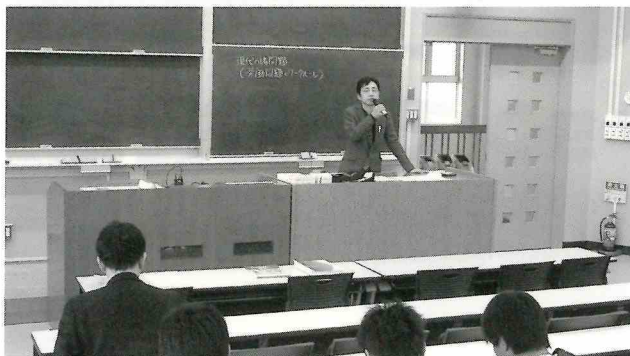


岩手大学の担当教員・河合准教授が概要説明



八幡事務局長が連合について説明



連合岩手と岩手大学 2017年度提携講座を開講

全学共通単位認定科目として実施

連合岩手と岩手大学は「2017年度連合岩手と岩手大学との提携講座」(担当教員:河合墨准教授)を4月13日に開講しました。

ブラック企業や様々な「ハラスメント」そして長時間労働など、働く者を取り巻く環境は厳しさを増しています。そのため、若年層の早期離職や、過重労働などによる心身の健康被害・過労死などが社会的な問題になっています。

連合岩手は、このような状況をふまえ、これから就職する学生たちに、ワークルール、労働基本権、労働組合、あるいは現実に起きている労働問題や労働者が向き合う課題など「働くということ」を学ぶ場を提供する取り組み

みとして、2015年度から「連合岩手と岩手大学との提携講座」をスタートさせました。

4月13日は、担当教員である河合准教授から講座の概要の説明を行い、連合岩手の八幡事務局長が連合について講義を行いました。

講座は7月27日まで全15回行われ、連合岩手役員のほか岩手労働局、岩手県からも講師を派遣していただき、さらに7月13日には連合本部・南部副事務局長が来県し基調講義を行い、さらに経営者の立場から(株)マイヤの米谷春夫社長からも講演をいただきます。今後とも連合岩手は、就職前の学生への「働くこと」を学ぶ機会の提供の取り組みを進めていきます。

「長時間労働の撲滅」「ディーセントワークの実現」を訴え 第88回メーデー岩手県中央集会を開催



「長時間労働撲滅」を訴える齋藤会長。議長団は浅利竜也さんと田口美幸さん。

2017年5月1日、第88回メーデー岩手県中央集会を盛岡市・盛岡城跡公園(岩手公園)で開催、約3,000人が結集しました。議長団に浅利竜也さん(青年委員会事務局長)と田口美幸さん(女性委員会幹事)を選出した後、実行委員会を代表して齋藤健市実行委員長(連合岩手会長)があいさつ、「働くことが最も重要な価値である社会の実現をめざそう」と訴えました。

続いて、来賓を代表して岩手労働局・久古谷敏行局長、岩手県・達増拓也知事、盛岡市・谷藤裕明市長、岩手労福協・砂金良昭副会長(労

金岩手県本部長)から祝辞をいただきました。

引き続き、スローガン採択、お楽しみ抽選会、コンクール審査結果発表、メーデー宣言採択を行い、「長時間労働を是正する取り組みの強化に向けた特別決議」を採択しました。最後に齋藤会長の団結ガンバローで集会をしめくり、デモ行進を行いました。

当日は、各地域協議会でメーデー地区集会を開催、県内各地で労働者の祭典を祝い、「底上げ・底支え」「格差是正」を訴えました。

東北ろうきん Summer campaign 2017 キャンペーン期間 6/1(木)~7/31(月)

もれなくもらえる 対象取引のいずれかを ご利用いただいた方全員に NEWクラブ プレゼント!

抽選でもらえる 対象取引をご利用 いただいた方の中から 抽選で1,200名様に 東北復興支援 5,000円相当の オリジナル カタログギフトを プレゼント!

campaign #1 店頭表示金利に金利上乗せ 年0.10%

新規で5万円以上の定期預金(1年)をお預入れの方は店頭表示金利に年0.10%を上乗せします。

0120-1919-62 (受付時間:平日 午前9時~午後5時) http://www.tohoku-rokin.or.jp

実行委員長あいさつ



労働が最も重要な価値を持つ社会の実現をめざそう

実行委員長 齋藤 健市(連合岩手会長)

過酷な長時間労働から命と生活を守る労働時間、労働環境の実現を訴えて第1回メーデーに立ち上がった労働者の思いは127年が過ぎた今の日本において未だに実現していません。労働基準法では、労働者を「原則として1日に8時間、1週間に40時間を超えて労働させてはならない」ことになっています。

しかし、電通社員の高橋まつりさんの過労自殺を象徴的に、全国で、岩手においても長時間労働による犠牲者を生み出しています。諸外国と比べても、日本は長時間労働であり、日本の風土、企業文化などで済まされる話ではありません。長時間労働は、過労死や過労自殺、過労によるメンタル疾患をはじめ、心と体をすり減らす最大の原因です。岩手は2014年では全国で労働時間が一番長く2015年では長い方から5番目の県でした。強い意志を持って長時間労働の是正を推進しなければなりません。

長時間労働の抑制は、過労死の減少、健康の確保はもちろん、家事・育児や、地域での活動時間を増やし、ワーク・ライフ・バランス、ディーセント・ワークの実現につながります。改めて、健康で安心して働ける労働時間、労働環境の実現を強く訴えます。

次に、労働組合はこの間、労働者の地位や生活を向上させる取り組みを行ってきました。しかし、格差拡大、生活の劣化、くらしが危機にさらされ不安が増大しています。

内閣府の国民生活に関する世論調査では、悩みや不安を感じる国民は3人に2人、年収200万円以下の労働者は4人に1人、非正規労働者は2042万人で2.6人に1人、貯蓄を保有していない世帯は3世帯に1世帯、子どもの5人に1人が就学援助を受けています。このことは、市場経済主義・新自由主義の論理で政治や経済運営が行われ、労働者や国民が虐げられ使い捨てにされていることを意味しています。雇用の劣化、労働の劣化は、格差の拡大、貧困の増加となり社会に歪みが生じています。自己責任の理論で社会的セーフティネットも不備となり、非正規だけでなく正規労働者にも生活の劣化が広がっています。

労働こそ生活の基本です。生活と労働が断ち切れようとしている今日の状況は、社会の成長、成り立ちを否定するものです。その要因である、市場経済主義・新自由主義の経済構造をつくり、地方の疲弊と格差拡大をもたらした自公政権の責任は重大です。公正な所得再分配を怠ってきた自公政権、それに企業利益と株主利益のみに固執してきた企業の社会的責任は重大です。

日本国憲法では、14条で「法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」、25条では「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」、27条では「すべて国民は勤労の権利を有し義務を負う。」ことを謳っています。この憲法の意味さえ、自公政権は理解

しようせず、逆に否定をしています。

私たちは今、社会の富を生み出し、主人公たる労働者が大事にされる「働くことを軸とする安心社会」への転換を強く求めている必要があります。そのためには日常的に賃金引上げ、労働安全衛生、労働者の連帯強化など基本的な運動を積み重ねるとともに、来るべき総選挙においては、推薦候補予定者の勝利を勝ち取らなければなりません。

本メーデーを契機に、労働者の復活に向けた運動をさらに強め、公正と連帯の社会実現にむけて、非正規労働者も含めた連帯の輪を作り上げなければなりません。

次に、4月27日、陸前高田に大型商業施設「アパッセンタカ」が開業し、東日本大震災・津波で壊滅状態となった中心市街地の再生に向けた形が一つ出来上がりました。震災復興事業は、ハード部門はゴールが見えてきました。しかし、そのハードをベースとした「なりわい」や「被災者の生活再建」はこれからです。震災から6年が経過しました。昨年には台風10号の被害も起こりました。私たちは、被災地、被災者が完全に復興するまで、ともにたたかっていかなければならないと思います。被災者全体を網羅するメンタル対策の強化、高齢被災者に寄り添うケアのあり方、地域に根差した産業従事者の確保、水産業などの後継者確保など、復興への課題が改めて浮き彫りになっています。私たちにできる可能な限りの取り組みを、引き続き追求するとともに具体的な行動に移していきたいと思ひます。

日本のメーデーは、1920年、第1回メーデーが東京・上野公園で開かれました。しかし、治安維持法の下での弾圧により「2.26事件」を契機にメーデーは禁止されました。

第二次世界大戦後、メーデーは労働組合の復活とともに再開し、労働者の地位や労働条件の向上、権利拡大をはじめ人権・労働基本権の確立、そして、民主主義の発展と恒久平和の希求に深く貢献し、その役割を果たしてきました。

今、安倍政権は、特定秘密保護法、安全保障関連法・戦争法を強行採決し、そして現在、テロ対策を名目とした共謀罪が国会で審議されています。第二次世界大戦前、日本は治安維持法を制定、国民を公権力により委縮させ、監視と管理を強化、そして戦争へと突入しました。日本人は、つらい教訓であったと認識すべきです。共謀罪は国民の内心にまで公権力による監視社会を押し付けるものです。時代の逆戻りを感じるとともにある種の恐怖を感じます。

人は働くことで人とつながり、社会に参加できるものです。働くことが最も重要な価値である社会をめざさなければなりません。そして、それが可能となる最大の条件は「平和」です。私たちは、何が何でも、日本国憲法第9条で追求する「平和」を求めて、あらゆる行動をしなければならぬことを最後に訴えて挨拶とします。

「ハート」「自立」をキーワードにパネルディスカッションで課題提起



パネルディスカッションでは、「震災復興&クラシノソコアゲ」について、各分野それぞれの仕事などを通じて感じている課題や「壁」などを報告・提起していただきました。

岩手県復興局の熊谷さんからは、復興計画の推進状況と復興計画の最後の実施計画となる「第3期復興実施計画」の方向性について説明をいただきました。

(株)マイヤの米谷さんからは、震災直後のマイヤの取り組みや震災から6年経過後の課題として人手不足や競合激化、社員のストレス過多などについて課題提起をしていただきました。

宮古市社会福祉協議会の有原さんからは、日常の相談

活動から、生活困窮者支援を通じての課題について現状報告と課題提起をしていただきました。

岩手日報社の金野さんからは、岩手日報が実施している遺族アンケート調査から浮き彫りになった暮らしの課題について現状報告をしていただき、とりわけ心の回復と生活再建の重要性について課題提起をしていただきました。

連合本部の山根木さんからは、震災直後のボランティア活動の取り組みから現在までの政策・制度実現の取り組みの報告や今後も被災地に寄り添った取り組みを進める決意を述べていただきました。

全労済では

自賠責共済を取り扱っています!

自動車損害賠償責任共済

ZENROSAL NEWS

0316A021

ご契約車両を運転中に、他人にけがをさせたり、死亡させたりした場合の対人賠償事故を補償します。

自賠責共済とは?

自動車損害賠償保障法によって道路を走るすべての自動車(二輪車を含む)、原付自転車に加入が義務づけられている共済(保険)です。

死亡	最高 3000万円
けが	最高 120万円
後遺障がい	程度に応じて 4000万円~75万円

もし自賠責共済(保険)に加入していないと?

未加入で運行した場合、法律により罰せられます。

6ヶ月以内の **免許停止** (違反点数 6点)

1年 以下の **懲役** または 50万円 以下の **罰金**

原付・バイクをお持ちの方は特に注意!

車検制度のない原付・250cc以下のバイクは自賠責共済(保険)の有効期限切れに特に注意が必要です。今一度、有効期限のご確認を!

28 満期年

10 満期月

マイカー共済とあわせてのご加入をおすすめします。

●ここに記載されている内容は、共済商品の概要を説明したものです。

全労済岩手県本部(岩手県労働者共済生活協同組合)

- 盛岡支所 千020-0026 盛岡市開運橋通1-1
- 北上支所 千024-0061 北上市大通り2-11-23北上市大通りビル1階
- 一関支所 千021-0031 一関市青葉1-8-20鈴木ビル1階
- 釜石支所 千026-0034 釜石市中妻町1-15-8

保障のことなら全労済

全労済は、営利を目的としない保険の生協として共済事業を営み、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしをめざしています。出資金をお支払いいただいて組合員になれば、各種共済をご利用いただけます。

震災復興&クラシノソコアゲへ 分野を超えた連携の出発点として

「地域フォーラム」で震災復興を議論



主催者あいさつをする齋藤会長

連合岩手は、連合が全国で進めている地域フォーラムを、「震災復興」と「クラシノソコアゲ」を一体的に進める出発点として「震災復興&クラシノソコアゲ地域フォーラム in 岩手三陸」という名称で4月15日（土）午後1時30分から大船渡市リアスホールで開催しました。

「地域フォーラム」は連合岩手と気仙地協、釜石・遠野地協、宮古地協を中心とした実行委員会で運営し、当日は170名が参加し、基調講演やパネルディスカッションを通じて、「震災復興&クラシノソコアゲ」を考えました。

「地域フォーラム」では、主催者を代表して連合岩手の齋藤会長があいさつ、今回のフォーラムを出発点として少なくとも向こう5年にわたり震災復興の課題について地域や大学をはじめとする幅広い分野と連携して研究や解決に向けた取り組みを進める決意を述べました。

また連合本部・山根本総合局長と地元・大船渡市の戸田公明市長よりご挨拶をいただきました。

基調講演では、岩手大学人文社会科学部の杭田俊之准教授が「復興の『壁』を超えるために～産業と雇用の再生取り組み事例から～」をテーマに、震災以降、三陸沿岸の産業と雇用の再生について研究してきた成果と課題から浮かび上がった「壁」と、その「壁」を乗り越える



杭田准教授による基調講演

ための「人づくり」や分野・局面を超えた「しくみづくり」について課題提起を行いました。

パネルディスカッションでは、杭田准教授をコーディネーターとして、行政から岩手県復興局の熊谷正則総括課長、企業から（株）マイヤの米谷春夫社長、福祉現場から宮古市社会福祉協議会の有原領一係長、メディアから岩手日報社報道局の金野訓子記者、労働組合から連合本部・山根本晴久総合局長がパネリストとして課題提起とディスカッションを行いました。

ディスカッションでは、「ハート」「自立」などのキーワードでそれぞれの意見を述べていただき、フロアからは最後まで参加していただいた大船渡市の戸田市長から復興に取り組む決意を含めた発言をいただきました。

今回のフォーラムは、労働組合だけでなく大学や行政、福祉団体、企業、メディアなど幅広い分野を超えて現状や課題の共通理解を深め、手を携えて復興に取り組む出発点と位置づけて開催しました。

連合岩手は講師を勤められた杭田准教授と連携して研究活動を進めるとともに、継続してフォーラムを開催し運動の到達点やその都度の課題について解決の道筋を探りたいと考えています。フォーラムは、隔年で沿岸と内陸で開催し、中期的なスパンで取り組む方針です。



コンクール最優秀賞はJR総連が受賞



久古谷局長のあいさつ



達増知事のあいさつ



谷藤市長のあいさつ



砂金本部長のあいさつ



齋藤実行委員長が力強くガンバロー



集会後3コースに分かれて市内をデモ行進

メーデー宣言

本日、私たちは第88回岩手県中央メーデーを開催した。

尊い命を奪い甚大な被害をもたらした東日本大震災から6年、熊本県を中心とする九州地震から1年が経過した。今なお多くの方々が、避難生活を余儀なくされているなど、不自由な生活を強いられている。

巨大災害の経験により、私たちは「人と人」とが支え合い、助け合わなければ生きていけないことを改めて学んだ。震災を絶対に風化させない、そして絆を深めた仲間とスクラムを組んで被災地を全力で支え続けていく。

世界に目を向けるとグローバル化の負の側面による格差や貧困の拡大と、保護主義の台頭や頻発するテロリズムなどが相まって、人々の不安は高まっている。国内においても、差別を助長する排他的な言動が横行するなど社会の分断が進んでいる。今の政治に必要なのは、対立を煽るのではなく、持続可能で包括的な社会に向けた責任ある言動、さらに丁寧な対話と発信である。

連合がこれまで取り組んできた長時間労働の是正や同一労働同一賃金の法制化は「働き方改革実現会議」のもとで「実行計画」として意義ある一里塚を刻んだ。「実行計画」の着実な進展に向け、これからも不断の努力を重ねるとともに、その実効性を確保するための集团的労使関係をあらゆる職場に構築していかなければならない。

2017春季生活闘争は、全ての働く者の賃金の「底上げ・底支え」「格差是正」を通じ、経済の自律的成長を促す取り組みである。大手追随・準拠の構造改革に挑み、その取り組みも前進している。賃上げの継続にこだわり、4年連続で賃上げが実現している。

政策制度の実現を通じた雇用の安定と質の向上、社会的セーフティネットの拡大・強化による子育て、医療、介護など将来不安の解消にも全力で取り組む。

メーデーは労働者の国際連帯の日である。そして8時間労働制の原点の日でもある。私たちは、国際労働組合総連合（I T U C）と連携し、戦争や紛争、テロはもちろん、格差や貧困、環境破壊や人権侵害を撲滅し、さらに世界中でディーセントワークが確立できるよう、真摯に取り組む。「メーデー」は、私たち労働者にとって「特別な日」だ。志を同じくする全ての働く者や生活者、関係団体と一つとなり、「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けて、連帯を強化し全力を挙げることを、ここに宣言する。

全県で「格差是正」「クラシノソコアゲ」をアピール

9会場でメーデー地区集会を開催 「愛のカンパ」、「街頭演説」、「台風10号被災地支援カンパ」、「フリマ」「ワークルールクイズ」など多彩な取り組み

花巻北上

午前9時30分から「花巻市文化会館」で集会を開催、約550名が参加しました。プラカードコンクール・アピールタイムでは、各単組が「格差是正」「長時間労働是正」などをアピールしました。

気仙

午前9時からメーデー会場である「盛川河川敷緑地公園」までデモ行進を行い、10時から集会を開会、約300名が参加しました。パネルコンクールや、抽選会などを実施しました。

宮古

午前10時から宮古駅前西広場で開催、約180名が参加しました。今年も「復興がんばっぺ〜す」と題して、被災地の完全復興や長時間労働撲滅をアピールし、宮古市内をデモ行進しました。

胆江

午後1時30分から奥州市「Zホール」で集会を開催、約1,000名が参加しました。プラカードコンクール、お楽しみ抽選会、フリーマーケット、マジックショーなどで盛り上がりました。

釜石

釜石・遠野地協は釜石と遠野の2ヶ所で開催しました。釜石地区集会は午後6時から「シープラザ遊」で開催し、約250名が参加しました。集会では、お楽しみ大抽選会などで盛り上がりました。

久慈

県北地協は久慈市と二戸市の2ヶ所で開催しました。久慈地区集会は、午後3時から久慈市「巽山公園」で開催し、約80名が参加しました。プラカードコンクールやお楽しみ抽選会で盛り上がりました。

一関

午前10時から「一関市総合体育館」で開催、約300名が参加しました。「ワークルール〇×クイズ」を実施するなど、新たな取り組みで盛り上がりました。

遠野

遠野地区集会は、午後1時30分から「遠野市民センター体育館」で開催、約100名が参加しました。集会では、抽選会のほかに「台風10号被災地への支援カンパ」などを実施しました。

二戸

二戸地区集会は、午後6時から二戸市「カシオペアメッセ・なにやーと」で開催、約120名が参加しました。集会前に推薦議員による街頭演説を行ったほか、労福協と共催でハンドマッサージも行いました。